

第1学年1組 図画工作科学習指導案

指導者

1. 題材名 すてきなもようの なかまたち

A表現(2) 工作

2. 題材設定の理由

○ 本学級の児童は、図画工作科の授業を楽しみにしている児童が多い。どの題材に対しても製作意欲は旺盛で、喜んで活動している様子がうかがえる。これまでに行った学習では、『ひかりのくにのなかまたち』や『チョッキンパツでかざろう』のように、ビニル袋や色セロハン、モールや色紙などで工作をする活動に特に意欲が感じられた。実態調査のアンケートでも、「楽しかった」と答えている児童が6割となっている。楽しかった理由として、「うまくできた」と感じられることや、「友だちと一緒にやって楽しかった」をあげている児童が多かった。達成感を得られることや、友達との交流が学習への意欲を高め、図画工作科の学習を楽しみにしている。反面、自分の思いのままにつくることがや、感じたことや表したいことを思いついたり、形や色、作り方などを考えて作品に表したりすることが十分にできない子も多い。図画工作科の学習で難しいと感じることとしてあげているのは「何をつくろうか考えること」である。『みてみていっぱいつくったよ』は、粘土で自分の表したいものをつくる活動だったが、粘土を目の前にして何をつくったらよいか考え込む児童が何人か見られた。自分から材料に働きかける気持ちがまだ育っていないものと思われる。

そこで、本題材では、紙粘土を広げたり伸ばしたりする感触や、型押しなどをする感触を十分に楽しませるようにし、身近にある洗濯ばさみやキャップ、ボタン、文房具などの材料を集めて、紙粘土に型押しなどをして遊ぶことで、形のおもしろさに気付かせ、自分なりの表現を工夫して楽しむことができるようにしたい。

○ 本題材では、「“高蔵の森”にすてきな模様のなかまたちをつくって飾ろう」という設定で、紙粘土との関わりを通して発想を広げ、表したいものを表現する活動を行う。これまでに生活科の学習をはじめ学校や地域の中でたくさんの虫や草花、魚や鳥などに会い、楽しく関わってきたことを生かして、児童の様々なイメージを膨らませ楽しく表現活動ができる題材である。紙粘土の可塑性や真っ白な色という特質を基に、手などの感覚を十分に働かせながら表現したいことを思い付く力を培い、いろいろな形を写し取る活動を通して、楽しい模様を工夫して表現する力を伸ばすことをねらいとしている。

3. 研究の着眼点

【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

① 題材設定の工夫について

自然豊かな校区の特色を生かして、これまでに学校や地域で出会った生き物たち(虫や草花、魚や鳥など)で「さんさんルーム」の壁面を飾ろうと持ちかけることで意欲を高めることを狙った。生活科の2学期単元「いきものとなかよし」の学習を想起させながら、「こんな模様のお花があったらいいな。」「こんなお魚がいたらおもしろいな。」と、児童が楽しく発想を広げることができるようにしたい。

② 題材との出会わせ方や展開の工夫について

「であう」段階では、教師が事前に身近な材料を使って型押しをした作品をクイズのように見せたり、型押しの方法を師範して見せたりして、活動意欲を高めるようにする。隔週月曜日の朝

に取り組んでいる「造形タイム」を利用して、紙粘土（60g）を広げたり伸ばしたりして洗濯ばさみやキャップ、ボタン、文房具などの材料を使って型押し遊びを経験させ、材料の形のおもしろさに気付かせるようにしたい。学校で用意した材料を使っているいろいろな押し方を試し、できた模様を見せ合う活動を通して、「型の押し方」についての『言葉のパレット』をつくり、みんながつくった「模様」を鑑賞するとともに、「型の押し方や模様」について表現するための言葉を豊かにする。また、「造形タイム」の経験を基に、「押したらどんな形になるだろう。」と想像しながら材料を集めたり選んだりさせることで、発見や工夫につながっていくと思われる。

「みつける・あらわす」段階では、『言葉のパレット』を掲示し、自分の気に入った「型の押し方」を生かしながら、自分が集めたいいろいろな材料を使ってすてきな模様を表すことができるようにする。また、紙粘土の量を150gに増やし、大きな土台いっぱい、自分のイメージする模様を思い切り表現できるようにしたい。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

① 感じたことを共有する言語活動について

本実践では、子どもたちが発見した「型の押し方や模様」に関する言葉を集め、『言葉のパレット』をつくる。型押しのヒントとなる言葉を学級の共有財産にすることで、表現への見方や感じ方を豊かにさせたい。「ころころ」「ならんでならんで」などの言葉を手掛かりにしてつぶやきながら活動することで、楽しみながらより豊かな表現へとつながるようにさせたい。

② 対話から生まれる言語活動について

「みつける・あらわす」段階では、押し方を試すための紙粘土（30cm×30cm）をグループごとに机の中央に用意しておき、自分の作品に型押しする前に試すことができるようにする。共通の場で試すことで会話が生まれ、表し方のおもしろさに気付いたりヒントを与え合ったりすることが期待される。活動の振り返りを記入する「ふりかえりシート」には、どの材料をどんなふうに使って型押ししているか、どんな押し方や模様が気に入っているのかということに目を向けて書かせるようにする。また、どんな思いをもって作品づくりをしているのかなどについて把握し、支援に生かすようにしたい。

「あじわう」段階では、「おはなしカード」（自分の作品についての思い）を書いて、友達と作品を見合って交流する際の手がかりとする。「さんさんルーム」の壁面いっぱい自分たちの作品を飾り、遊んだりお話をさせたりして、自分たちのつくりあげた「たかくらのもり」の世界に浸らせることで、満足感を味わわせたい。

4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫・手だて

別紙参照

※別紙については、協議会后、回収します。

5. 目標

| | |
|------------------|---|
| 造形への 関心・意欲・態度 | ○ 型を押したり引っかいたりする表現方法に興味や関心を持ち、取り組もうとする。 |
| 発想や構想の能力 | ○ どんな模様ができるか想像しながら、繰り返し試し、自分のイメージを広げることができる。 |
| 創造的な技能 | ○ 型の押し方や押す場所などを工夫したり、型押しした場所に色を付けたりしてつくることことができる。 |

| | |
|-------|--|
| 鑑賞の能力 | ○ それぞれの活動の違いに気付くとともに、自分や友達の表し方のよさや違いを感じ取ることができる。 |
|-------|--|

6. 指導計画と評価計画（総時数5時間）

| | 主な学習活動・内容 | 指導・支援上の留意点 ◎言語活動 | 評価規準および評価方法 |
|--------|--|---|---|
| であう | <p>【造形タイム】（事前） 「型押し遊び」をして、紙粘土に型を押しつけて形を写し取る活動を楽しむ。</p> <p>1 自分の集めた材料を使って、いろいろな押し方や模様づくりを楽しむ。 ①</p> | <p>○ 紙粘土で土台をつくったり、形を写し取ったりする方法を知り、いろいろな表し方を試すことができるようにする。</p> <p>○ 進んでいろいろな材料を集めようとする意欲を持たせるようにする。</p> <p>○ 導入時に、型あてクイズをして型押し遊びに対する関心を高めるようにする。</p> <p>○ 工夫している児童の表現を取り上げて紹介し、さらにいろいろ試してみようとする意欲を高めるようにする。</p> | <p>【関】紙粘土の心地よい感触を味わい、型を押ししたり引っかいたりする表現方法に興味や関心を持って「型押し遊び」をしている。 (行動観察、発言)</p> |
| みつけらわす | <p>2 「高蔵の森」に飾りたいなかま」を紙粘土でつくり、型押しして模様をつける。 ③</p> <p>(1) 『言葉のパレット』づくりをし、紙粘土で土台をつくる。 ・ 自分や友達の作品を見て、おもしろい型の押し方や模様の工夫について話し合い、『言葉のパレット』づくりをする。 ・ 紙粘土を広げて形をつくる。</p> <p>(2) 型押しして模様をつける。 ＜本時2／3＞</p> | <p>◎「<u>型押し遊び</u>」をもとに、「<u>型の押し方や模様</u>」についての『<u>言葉のパレット</u>』づくりをし、<u>いろいろな押し方や模様づくりに興味をもたせ、「高蔵の森」に飾りたいなかまのイメージを広げることができるようにする。</u></p> <p>○ 厚みは人差し指の第一関節ぐらいを目安にさせる。虫などの生き物をつくる児童には、手足を表現するために使う副材料(カラーストローやモール、木切れなど)について考えさせるようにする。</p> <p>◎ <u>グループ用の紙粘土に共同で試し押し</u>の活動をさせることで、<u>型押し</u>の面白さや工夫を見つけ、<u>言葉に表して共有できるようにする。そうすることで、イメージを広げ新たな表し方の工夫が生まれるようにする。</u></p> | <p>【発】「型押し遊び」でつくった形や模様から、自分の気に入った表し方を見つけ、イメージをふくらませている。 (発言、ふりかえりシート)</p> <p>【発】どんな模様ができるか想像しながら、型の押し方や模様を繰り返し試し、自分のイメージを広げることができている。 (行動観察、作品、ふりかえりシート)</p> |

| | | | |
|------|--|---|---|
| | (3) 型押しした紙粘土に、色付けして、壁飾りをつくる。 | ○ 模様を見てどのような色にした いか発表させ、模様の特徴からイメージを広げて色をつけることができるようにする。 | 【創】型の押し方や押し場所を生かせるような色付けを工夫し、さらに豊かな表現をしようとしている。 (作品、行動観察、ふりかえりシート) |
| あじわう | 4 自分や友達がつくった作品を、飾る場所や飾り方を工夫しながら見合い、お互いの作品のよいところや好きなどころを発表し合う。 ① | ○ 作品を子ども達の手で「さんさんルーム」の壁面に飾るようにする。 ◎ <u>「おはなしカード」に、自分の作品についての思いを書き、それを基に話し合うようにする。</u> ・気に入っているところや工夫について ・自分の作品について考えたお話など | 【鑑】自分や友達の作品のよさや楽しさ、表現の違いや工夫を感じ取ることができている。 (おはなしカード、発言ふりかえりシート) |

7. 本時の学習 平成29年10月6日(金) 第5校時 さんさんルーム

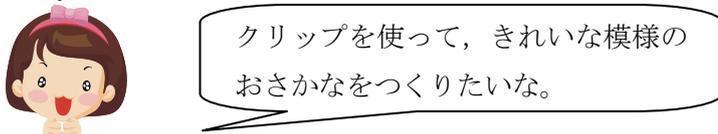
(1) 主眼

いろいろな「型押し」を試す活動を通して、「“高蔵の森”に飾りたいなかま」のイメージを広げながら、自分の思いに合う模様をつくることができるようにする。

(2) 準備

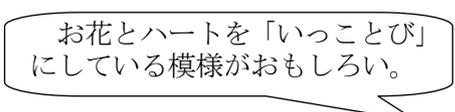
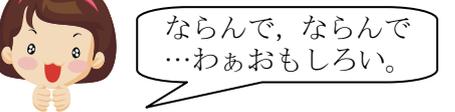
- ① 教師 紙粘土、共用の身边材料(洗濯ばさみ、クリップなど)、手ふき、ふりかえりシート、アイデアシート
- ② 児童 写したい身边材料(ボタン、キャップなど)、粘土板

(3) 展開

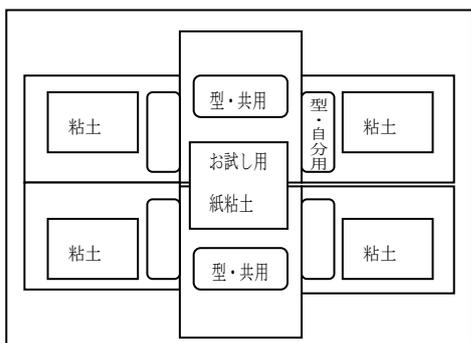
| | 主な学習活動・内容 | ○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法) |
|-----|---|---|
| であう | 1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。 (1) 「型押し」についての『言葉のパレット』やみんなのつくった「模様」を見て、簡単に振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">めあて 「たかくらのもり」のなかまに すてきなもようを つけよう。</div> | ○ 前時につくった「型の押し方や模様」についての『言葉のパレット』を提示し、型の使い方や模様のおもしろさを想起できるようにする。 |
| | (2) 作品例を見て、作品づくりの見通しをもつ。 | ○ 教師の作った作品を提示し、「高蔵の森”に飾りたいなかま”をイメージして壁飾りを作ることができるようにする。  |

み
つ
け
る
・
あ
ら
わ
す

2. 気に入った型を選び、紙粘土に押し付けながら形の変化を楽しむ。



《机上図》



- 粘土が柔らかいうちは、形を変えることができるので、いろいろな型を押して試すようにさせる。
- 友達の表現を見ながら、良い所は取り入れてもよいことを伝える。

◎ 全員がある程度型押しが進んだ段階で、型の押し方や押し場所、模様の工夫について交流させることによって、自分の作品のイメージを広げられるようにする。

予想されるつまずきに対する具体的な支援

◆ 発想や構想でつまずき活動が進まない子どもに対する支援

⇒① 児童が用意した身近材料を使い、『言葉のパレット』にある言葉を手がかりにして、「ころころ。」などつぶやきながら、グループ用の紙粘土に試し押しをして見せる。押し方の違いでできる形が変わることに目を向けさせ、どの型をどのように使って模様にするかを考える手がかりにさせる。

② グループ用の紙粘土に友達が押ししている形や模様を見て、どの型をどのように使ったのか交流しながら活動できるよう声かけをする。

◆ 技能的な面でつまずいている子どもに対する支援

⇒① 押し方が弱く形をはっきりと写し取ることができていない児童には、実際にして見せ、力加減に気付かせるようにする。

- 早く出来上がった児童には、作品の色を考えてアイデアシートに書き込むようにさせる。

【発】どんな模様ができるか想像しながら、紙粘土の形や押し方を繰り返し試し、自分のイメージを広げることができる。

(作品分析, 行動観察)

| | | |
|------------------|---|---|
| あ じ わ う | <p>3. 今日の学習で見つけたすてきな模様について発表し合う。</p> <p>(1) できた作品を見せ合い，互いのよい所を伝え合って「ふりかえりシート」に書く。</p> <p>(2) 全体で交流する。</p> | <p>◎ <u>自分や友達の作品の模様や形に着目させ，よいところや好きなところについて，全体で交流する。</u></p> <p>○ 友達の作品を見て，形や模様のおもしろい所はどこか考えさせるようにする。</p> <p>○ 次回は色を塗って仕上げることを知らせ，どんな色にしていくかイメージをもたせるようにする。</p> |
|------------------|---|---|

今日の学習で目指す「熱中する子どもの姿」

どんな模様ができるか想像したり繰り返し試したりして「型押し」を楽しみ，自分の作品や友達と対話しながら自分のイメージを広げ，生き生きと活動に取り組む子ども。